

学習ポイント 1

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

四字熟語は、四字を書けるだけでは使いこなせません。何を表す語か、どんな場面に合うかを文脈から判断しましょう。この教材では読み・表記・意味・使い方を復習し、二つの表現の違いや、選んだ根拠を説明する力まで確かめます。例文と問題文はすべて本教材のために作成したものです。

目標 漢字の意味と読みを結び付け、四字熟語を正しく読んだり書いたりする。／人物の行動や状況を根拠に、ふさわしい四字熟語を選ぶ。／似た表現の違いを説明し、意味が伝わる具体的な文を作る。

1 四字全体の意味をつかむ

四字熟語は、漢字四字がまとまって一つの意味を表す言葉です。この教材では、とくに慣用的な意味をもつ表現を扱います。まず四字全体を短い言葉で言い換え、その後に一字ずつの意味を結び付けます。字面だけから想像すると、意味を取り違えることがあります。由来のある語も、由来の暗記で終わらず、今の文章で何を表すかを確かめましょう。

例1 温故知新（おんこちしん）：昔の知識や出来事を学び直し、新しい理解につなげる。古い治水の記録から、今の防災を考える場面に合う。

例2 試行錯誤（しこうさくご）：実際に試し、うまくいかない点を改めながら方法を探る。単に同じ失敗を繰り返すことではない。

例3 切磋琢磨（せっさたくま）：学問や技術などを磨き、高めること。互いに励まし合い、競い合って向上する場面にも使う。

2 二字ずつの関係を見る

二字ずつに分けると、意味を整理できる語があります。似た内容を重ねるもの、反対の内容を並べるもの、行動の組合せを示すものなど、結び付きに注目します。ただし、すべての四字熟語を同じ仕組みで説明することはできません。読み方も四字全体で確かめましょう。漢字を一字ずつ知っていても、語の中で音が変わる場合があります。

例1 自問自答（じもんじとう）：「自分で問う」と「自分で答える」が組み合わさる。進路について自分に問いを投げかけ、答えを考える。

例2 大同小異（だいたいどうしょうい）：「大部分は同じ」と「小さな違い」が対になる。細部は異なるが、全体として大きな差がない。

例3 一長一短（いっちょういつたん）：「長所」と「短所」を並べる。どちらの案にもよい点と不十分な点があり、単純には決められない。

学習ポイント 2

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

3 状況と行動を対応させる

選択問題では、印象のよい語を選ぶのではなく、状況と行動の組合せを読み取ります。

「何が起きたか」「誰がどう動いたか」「その結果どうなったか」に分けて考えると、根拠がはっきりします。似た場面に使える語があっても、問題文が強調している点は異なります。選んだ語を短い説明に戻し、本文に当てはまるかを確認しましょう。

例1 臨機応変（りんきおうへん）：状況の変化に応じ、ふさわしい方法に切り替える。雨で校庭が使えず、体育館でできる活動に改めた。

例2 適材適所（てきざいてきしょ）：その人の能力や特性に合う役目に配置する。話すことが得意な人に案内を任せた。

例3 一致団結（いっちだんけつ）：多くの人が心を一つにして力を合わせる。学年全体が協力し、会場の準備を進めた。

4 評価の向きに注意する

四字熟語には、行動を肯定的に表す語も、問題点を指摘する語もあります。意味の中心だけでなく、書き手がその行動をどう評価しているかも読みます。「速く決めた」だけで、正しい判断だったかどうかは決まりません。前後にある理由や結果を確かめ、ほめる文に批判的な語を無理に当てはめないようにしましょう。

例1 公明正大（こうめいせいだい）：隠し事や不正がなく、公平で堂々としている。選考の基準と結果を説明し、身内だけを優遇しない。

例2 独断専行（どくだんせんこう）：周囲に相談せず、自分だけの判断で物事を進める。共同の計画を責任者が勝手に変更した。

例3 本末転倒（ほんまつてんとう）：大切な事柄と、それに付随する事柄の扱いが逆になる。発表の飾りに時間を使い、調査をしない。

学習ポイント 3

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

5 読みと表記を意味で確かめる

音だけで覚えると、同じ読みの別の漢字を書きやすくなります。誤字を直すときは、熟語全体の意味に戻り、なぜその字を使うのか説明してみましょう。読みの問題では、促音「っ」や長音の表記まで確認します。知らない語は漢字だけから断定せず、辞書で語全体の読み・意味・用例を調べます。

例1 五里霧中（ごりむちゅう）：「霧」の中にいるように、方針や様子が分からないこと。「夢中」と混同しない。

例2 優柔不断（ゆうじゅうふだん）：ぐずぐずして決められないこと。「断」は決断の「断」で、「段」ではない。

例3 暗中模索（あんちゅうもさく）：手がかりが十分でないまま、あれこれ方法を探ること。「模索」は手探りで探す意。

6 意味と根拠を結んで答える

記述問題では、辞書の説明を書くだけでなく、本文中の事実と結び付けます。まず語の意味を示し、次にその意味に当たる行動や結果を挙げます。自作の短文には、主語や場면을補いましょう。「これは〇〇だ」だけでは、本当に意味を理解しているか伝わりません。語の説明をそのまま文に付け足すより、具体的な出来事以示すことが大切です。

例1 因果応報（いんがおうほう）：善い行いにも悪い行いにも、それに応じた結果が返るという考え方。悪い結果だけに限らない。

例2 自業自得（じごうじとく）：自分の行いが、自分にとって好ましくない結果を招くこと。日常では悪い結果を受ける場面で使われる。

例3 一石二鳥（いっせきにちょう）：一つの行動で二つの利益を得ること。古本交換会で、資源を節約しながら新しい本にも出会えた。

使い方と参考資料

本教材の対象と採点について

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順で取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

読み・語彙は小学校～中学校の既習事項を広く復習し、書き取りには高校受験対策の語も含めます。「中3」は利用の目安であり、各語が全国共通の中3新出漢字という意味ではありません。

書く欄は1マス9mm、罫線は1行10mmです。字数指定がない場合、余ったマスは空けて構いません。字数指定のあるマス目では、句読点も1マスに1字ずつ書きなさい。

本教材では、学校での学習を想定した標準的な読み・表記を練習します。辞書にある別読・異表記をすべて許容解とするものではありません。送り仮名の許容形や記述の言い換えは、解答解説の基準に従います。手書きの字形は、同じ漢字と判断できるかを確認してください。

設問・例文は、本教材のために作成したオリジナルです。出題頻度の統計や特定地域の入試傾向を示す教材ではありません。参考資料の例文・設問は転載していません。共通する語句は、別の文脈や出題形式で繰り返し確認する総復習として配置しています。

1 文部科学省 中学校学習指導要領 平成29年告示 国語

語彙を豊かにし、文脈に即して言葉を用いる学習と漢字学習の範囲を確認。中学3年の新出漢字一覧とは位置付けていない。

2 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 温故知新

意味と読みの確認。例文は転載せず独自に作成。

3 日本漢字能力検定協会 kanji café 臨機応変

慣用表現としての四字熟語と、臨機応変の意味を確認。

4 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 異口同音

読み「いこうおん」と、意見が一致する意味を確認。

5 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 一喜一憂

状況ごとに喜んだり心配したりする意味を確認。

参考資料 続き

語義と学習範囲の確認

6 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 支離滅裂

まとまりや筋道がない意味と、理路整然との対照を確認。

7 日本漢字能力検定協会 kanji café 半信半疑

信じる気持ちと疑う気持ちが必ず五割ずつとは限らないことを確認。

資料確認日 2026年10月8日。資料名を選ぶと参照ページが開きます。